



# 第156期 中間報告書

2019年4月1日 ▶ 2019年9月30日



## Contents

株主の皆様へ	▶ P01
中期経営計画の進捗について	▶ P03
事業別の概況	▶ P04
ニュース・フラッシュ	▶ P05
<b>ニコンDXフォーマットミラーレスカメラ「Z 50」を発売 コンパクトデジタルカメラ「COOLPIX W150」を発売</b> ほか	
会社概況・株式の状況	▶ P07

株式会社 **ニコン**

証券コード：7731



代表取締役 兼  
社長執行役員 兼 CEO

馬立 稔和



株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

当社第156期中間期(2019年4月1日～2019年9月30日)の事業の概況についてご報告申し上げます。

#### ■ 当中間期の概況

当中間期の経済状況は、我が国経済は堅調な個人消費や設備投資の増加などにより、引き続き緩やかな景気回復が見られました。米国経済は雇用改善を受けた個人消費の堅調な推移等により回復が続き、欧州経済は英国のEU離脱問題などはありましたが個人消費が堅調に推移し、緩やかな回復が続きました。また、中国経済は米中貿易摩擦の影響などもあり、減速傾向にありました。

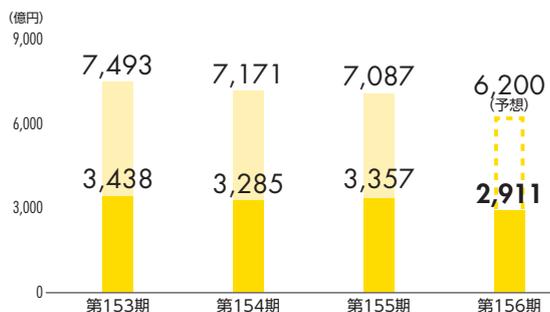
事業別では、映像事業においては、レンズ交換式デジタルカメラ市場及びコンパクトデジタルカメラ市場は縮小傾向が続きました。精機事業においては、FPD関連分野は中小型パネル

用の設備投資は一段落したものの、大型パネル用の設備投資は堅調に推移しました。半導体関連分野は半導体市場の減速を受け、設備投資は一服感が見られました。ヘルスケア事業においては、バイオサイエンス分野及び眼科診断分野ともに堅調に推移しました。

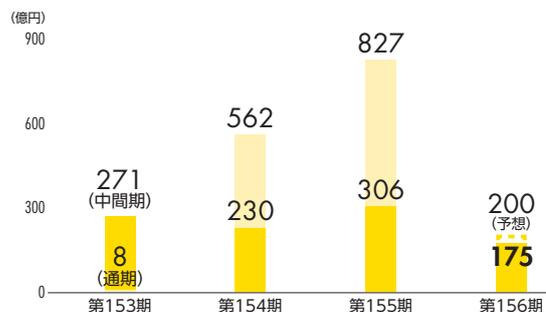
当社グループでは、2019年5月に発表した新中期経営計画の下、持続的企業価値の向上に向けた成長基盤構築を目標とし、各種施策に取り組みました。

まず、「新たな収益の柱の創出」のため、3Dプリンターやレーザー加工機などを主とする「材料加工事業」の立ち上げに注力し、光加工機シリーズの開発とマーケティングを推進しました。また、「既存事業の収益力強化」のため、映像事業、FPD装置事業、半導体装置事業の主要3事業において、生産・販売体制のさらなる見直しや、選択と集中を推し進めました。さらに、ガバナンス改革として、取締役会の活性化のために社外取締役の多様性拡大に取り組むとともに、

■ 売上収益 ■ 中間期 ■ 通期

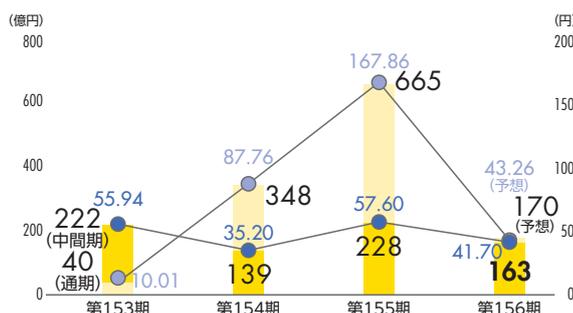


■ 営業利益 ■ 中間期 ■ 通期

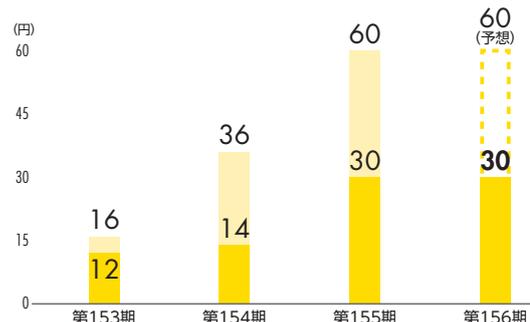


■ 親会社の所有者に帰属する当期利益 ■ 中間期 ■ 通期

● 基本的1株当たり当期利益 ● 中間期 ● 通期



■ 1株当たり配当金 ■ 中間 ■ 年間



※第155期から、従来販売管理費として計上していた販売促進費の一部を売上収益から控除しています。

詳しい財務情報は当社ホームページをご覧ください。 <https://www.nikon.co.jp/ir/> ニコン 投資家情報 検索

社長の指名・後継者育成等のために指名審議委員会を設置しました。

このような状況の下、当中間期の業績は、売上収益は2,910億52百万円、前年同期比446億96百万円(13.3%)の減収、営業利益は175億4百万円、前年同期比131億37百万円(42.9%)の減益、親会社の所有者に帰属する四半期利益は163億43百万円、前年同期比64億79百万円(28.4%)の減益となりました。

■ 通期の見通し

通期の事業環境は、映像事業では、レンズ交換式デジタルカメラ市場及びコンパクトデジタルカメラ市場は、ともに縮小が続くことが予想されます。精機事業では、FPD関連分野は中小型パネル用の設備投資は一段落し、大型パネル用の設備投資にも一部後ろ倒しの動きが見られます。半導体関連分野は半導体市場の減速を受け、設備投資は一服するものと見込まれます。ヘルスケア事業においては、バイオサイエ

ンス分野は引き続き堅調に推移することが予想され、細胞受託生産、幹細胞関連の新事業の売上拡大が見込まれます。眼科診断分野では、網膜画像診断機器市場が海外を中心に引き続き堅調に推移するものと見込まれます。

なお、株主還元の強化、資本効率の向上ならびに機動的な資本政策の遂行を図ることを目的として、3,600万株、300億円を上限に自己株式の取得を決定しました。今回取得する自己株式につきましては、当期中に全株消却する予定です。

株主の皆様におかれましては、引き続きご支援、ご指導を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

2019年11月

## 中期経営計画の進捗について

当社は2019年5月に中期経営計画を策定し、「新たな収益の柱の創出」「既存事業の収益力強化」を戦略施策に掲げ、取り組みを進めてきました。しかしながら、事業環境が想定以上に悪化していることを踏まえ、既存事業のうち映像事業については、抜本的な事業構造の変革を実施することとしました。また、新たな収益の柱と位置付けている「材料加工事業」では工作機械メーカーとの協業等、成長基盤構築に向けての取り組みを加速させていきます。

### 既存事業の収益力強化

## 映像事業の抜本的な変革

キャッシュフローを創出し続ける事業へ再生させるため、事業構造を抜本的に変革します。

#### 課題

体制・戦略を根本的に見直し、課題に適切に対処して、収益悪化に歯止めをかける必要

- レンズ交換式カメラ市場はミラーレスカメラを含め想定以上の環境悪化
- ミラーレスカメラの販売計画自体も結果として無理があった
- 事業全般で意思決定に時間を要し、業務に遅れ
- 価格や技術開発の競争等、競争環境はさらに激化していく

#### 変革のポイント

**事業戦略** プロ・趣味層セグメントへのフォーカスを徹底

**構造改革** 新たな事業戦略とより厳しい市場環境を踏まえて、一定収益を確保し続ける体制を構築

→ 中期経営計画期間中に**事業運営費を2019年3月期比500億円(うち固定費200億円)削減**

開発: 中核技術の開発は堅持、製品開発は一層選別、長期成長領域へのリソースシフト積極化  
販売: 営業戦略の抜本的な見直し、拠点・販社の最適化、徹底的な効率化  
生産: 拠点の機能と規模を最適化(ニコングループの他事業の活用も推進)

### 新たな収益の柱の創出

## 材料加工事業の取り組み

コアとなる製品・ソリューションの開発・販売を推進するとともに、工作機械メーカーとの協業により、材料加工事業の立ち上げを加速させます。

### 光加工機シリーズの開発・販売

- 第1弾 「Lasermeister 100A」を2019年4月に受注開始
- 第2弾 「金属除去加工機」を2019年9月に展示会出展

今後も第3弾、第4弾と独自性の高い装置を販売していく計画

受託加工や顧客アプリケーション開発も並行して推進

### DMG森精機と業務提携で基本合意

ニコン



技術提携

計測及びカメラに関連する技術の提供

光加工機にグローバルな販売網を活用

販売提携

DMG森精機



ニコンの計測及びカメラ関連技術をDMG森精機の工作機械に適用し、高度化を実現

DMG森精機の販売網を活用し、ニコン光加工機のグローバルな販売を展開

## 事業別の概況

### 映像事業

売上収益 1,190億54百万円 前年同期比21.1%減

営業利益 20億26百万円 前年同期比84.7%減

主要製品 レンズ交換式デジタルカメラ・  
コンパクトデジタルカメラ・交換レンズ・  
フィルムカメラ・望遠鏡

#### ■ 当中間期の概要

レンズ交換式デジタルカメラは、フルサイズミラーレスカメラ及びその交換レンズの拡販に努め、高級機の販売台数は前年同期を上回りました。

コンパクトデジタルカメラは、光学125倍ズームを搭載した「COOLPIX P1000」など高付加価値製品の販売に注力しました。

しかしながら、市場が縮小するなか、レンズ交換式デジタルカメラ及びコンパクトデジタルカメラともに全体の販売台数は減少しました。

#### ■ 通期の見通し

期初の想定よりさらに厳しい市場と競争環境が見込まれることから販売計画を見直し、併せて、さらなる市場縮小下でも収益性を確保する事業に転換する構造改革を実施します。売上収益は2,350億円、営業損失は100億円となる見込みです。

### 精機事業

売上収益 1,151億74百万円 前年同期比 5.3%減

営業利益 254億12百万円 前年同期比14.8%減

主要製品 FPD露光装置・半導体露光装置

#### ■ 当中間期の概要

FPD露光装置分野では、第10.5世代プレートサイズ対応装置が販売台数を伸ばしたものの、全体としては販売台数が減少したため、減収減益となりました。

半導体露光装置分野では、ArF液浸スキャナーの販売台数増加により、増収増益となりました。

#### ■ 通期の見通し

FPD露光装置、半導体露光装置の売上の一部について、顧客都合や台風被災の影響により来期への繰り延べを見込んでいます。売上収益は2,550億円、営業利益は510億円となる見込みです。

### ヘルスケア事業

売上収益 300億93百万円 前年同期比 2.3%増

営業利益 △12億23百万円 前年同期△23億74百万円

主要製品 生物顕微鏡・細胞培養観察装置・  
超広角走査型レーザー検眼鏡

#### ■ 当中間期の概要

バイオサイエンス分野では、生物顕微鏡の販売が減少し、減収となりました。

眼科診断分野では、超広角走査型レーザー検眼鏡の販売が堅調に推移し、増収となりました。

#### ■ 通期の見通し

バイオサイエンス分野では引き続き堅調に推移することが予想され、眼科診断分野では網膜画像診断機器市場が海外を中心に引き続き堅調に推移するものと見込まれます。売上収益は650億円、営業損失は10億円となる見込みです。

### 産業機器・その他

売上収益 267億31百万円 前年同期比20.7%減

営業利益 24億86百万円 前年同期比10.9%減

主要製品 工業用顕微鏡・測定機・  
特注機器・FPDフォトマスク基板

#### ■ 当中間期の概要

産業機器事業では、中国を中心にアジアにおいて市況が低調に推移するとともに、一部装置の販売が繰り延べになる等の影響により減収となりました。

カスタムプロダクツ事業では、固体レーザーと光学部品が増収となりましたが、特注機器の減収により、全体として減収となりました。

ガラス事業では、FPDフォトマスク基板の拡販を進め、増収となりました。

#### ■ 通期の見通し

中国等アジアの顧客を中心とした設備投資計画が後ろ倒しになっていることから、関連製品の販売計画を見直します。売上収益は650億円、営業利益は40億円となる見込みです。

Product

## 高い描写力、多彩な表現力を小型・軽量ボディに凝縮 ニコンDXフォーマットミラーレス カメラ「Z 50」を発売



「Z 50」は、ニコン初のDXフォーマットミラーレスカメラです。「Z 7」と「Z 6」の洗練されたデザインや操作性、信頼性、システムとしての将来性などを継承し、高い描写力と多彩な表現力を小型・軽量かつ堅牢なボディに凝縮。有効画素数2088万画素、DXフォーマットカメラ初の像面位相差AF画素搭載のCMOSセンサーと画像処理エンジン「EXPEED 6」の採用により、ISO 100～51200\*の広い常用感度域でノイズの少ない高画質を実現しました。同時発売の「NIKKOR Z DX 16-50mm f/3.5-6.3 VR」「NIKKOR Z DX 50-250mm f/4.5-6.3 VR」をはじめ、すべてのNIKKOR Z レンズが使用可能で、静止画・動画問わず多彩な映像表現をお楽しみいただけます。

\* 動画撮影時は最高ISO 25600。

News

## 世界的なESG投資指標が企業の持続可能性を評価 「DJSI World」 「DJSI Asia Pacific」 の構成銘柄に2年連続で選定

世界的なESG(環境・社会・ガバナンス)投資指標のひとつである「Dow Jones Sustainability Indices (以下、DJSI)」において、「DJSI World」及び「DJSI Asia Pacific」の構成銘柄に2年連続で選定されました。毎年、世界の大手企業を対象に「経済」「環境」「社会」の3つの側面から企業の持続可能性を評価して数値化。今年の「DJSI World」選定企業は318社で、ニコンは「レジャー用品および民生用電子機器」部門で選定されました。また、アジア太平洋地域の構成銘柄である「DJSI Asia Pacific」にも選定されました。

Product

## 子どもから大人まで楽しめる コンパクトデジタルカメラ 「COOLPIX W150」を発売



左:リゾート  
右:ブルー

「COOLPIX W150」は、優れた防水・耐衝撃・耐寒・防塵性能を搭載、ビーチやスキー場など様々なシーンで撮影が楽しめます。子どもから大人まで持ちやすく、使いやすい、丸みを持たせたデザインを採用。カラーバリエーションには、ポップでかわいい絵柄の「リゾート」と「フラワー」を新たに追加しました。被写体を予測して自動でピントを合わせる「ターゲットファインドAF」\*、ステレオ音声付きフルHD動画撮影機能を搭載するなど、高画質の撮影を簡単に楽しめるだけでなく、思い出を印象に残せる撮影・編集機能も充実しています。

\* 「オートでとる」で撮影時。

Product

## 光加工機シリーズの次世代モデル 金属除去加工機の参考出展

ニコンでは光加工機シリーズの次世代モデルとなる「金属除去加工機」の開発を進めており、パシフィコ横浜で開催された「高精度・難加工技術展2019」に参考出展しました。光加工機とは、レーザーによる様々な金属加工を高精度で行うことができる、ニコン独自の金属加工機です。ニコンは2019年4月に、造形・肉盛りといった金属3Dプリンターの要素からマーキング、接合など、レーザーによる様々な金属加工を高精度で容易に行える光加工機「Lasermeister 100A」を発売。現在開発中の「金属除去加工機」は、この光加工機シリーズの第2弾となり、超短パルスレーザーによる高精度な除去加工が可能です。

## 50周年を迎えたフォトコンテスト 「ニコン フォトコンテスト 2018-2019」 のグランプリを発表



「Ayimpoka」

本コンテストはニコンが1969年から開催し、今年で50周年を迎えた世界最大規模の国際写真コンテストです。世界170の国と地域から、過去最高の97,369点の応募があり、「一般部門」「Next Generation部門」「動画部門」3部門の応募形式ごとに受賞作品を選出。Gold Prize受賞作品の中から選ばれるグランプリには「Next Generation部門」の作品でSara De Antonio Feu氏(スペイン)による「Ayimpoka」が選ばれました。

## 光学顕微鏡と電子顕微鏡を連携 「アスベストCLEMソリューション」 を提案

ニコンの子会社、株式会社ニコンインステックと日本電子株式会社は、アスベスト(石綿)の同定を行う「アスベストCLEMソリューション」を提案します。これは、光学顕微鏡と電子顕微鏡を連携させることで、形態観察、計数、元素分析によってアスベストの同定を行う新しいソリューションです。ニコンの光学顕微鏡で分析対象となる繊維を見つけてマーキングし、日本電子の電子顕微鏡でソフトウェアによる元素分析を実施する新たな方法です。同一サンプルを用いて形態観察、計数、元素分析をすることで、様々な鉱物や繊維が混在する試料であっても、より正確な同定をサポートします。

### ホームページのご案内

当社ホームページでは、企業情報や財務情報、事業活動や製品情報などをはじめとする様々な情報を掲載しております。当社をよりご理解いただくためにも是非ご覧ください。

 <https://www.nikon.co.jp>



## 日本の科学技術の発展を示す未来技術遺産に登録 「ニコンF」が「重要科学技術史資料 (未来技術遺産)」に登録



1959年発売のニコン初のレンズ交換式一眼レフカメラ「ニコンF」が、独立行政法人国立科学博物館より「重要科学技術史資料(未来技術遺産)」に登録されました。これは、日本の科学技術の発展を示す科学技術資料の保存をうながし、登録する制度です。「ニコンF」は、先進的なレンズマウント、クイックリターンミラー、完全自動絞りを搭載、ファインダー交換などを実現し、日本のカメラ産業を世界一に導く契機となった機種として重要との理由で選定されました。

## 日本における再生医療の早期実用化に貢献 株式会社ヘリオスと 業務・資本提携関係を拡大

株式会社ヘリオスとの間において、2017年に締結した業務・資本提携契約に基づく提携関係の拡大について、2019年7月に合意しました。ヘリオスは、iPS細胞(人工多能性幹細胞)等を用いた再生医薬品開発のフロントランナーであり、実用化の可能性のあるパイプラインを複数保有するバイオテクノロジー企業です。ニコンは、両社の持つノウハウや技術を最大限活用し、日本における再生医療実用化の早期実現とともに、人々のQOL(Quality of Life)の向上に貢献していきます。



# 会社概況・株式の状況 (2019年9月30日現在)

## 会社概要

社名(英文社名) 株式会社ニコン(NIKON CORPORATION)  
 本社所在地 東京都港区港南2-15-3 品川インターシティC棟  
 TEL 03-6433-3600  
 設立年月日 大正6年(1917年)7月25日  
 資本金 654億76百万円  
 従業員数 単体 4,465名/連結 21,067名  
 (注) 単体従業員数にはニコンから他社への出向者等を含みません。

## 役員

### 1. 取締役 ※ 社外取締役

代表取締役	牛田 一雄	馬立 稔和	岡 昌志
取締役	小田島 匠	萩原 哲	根岸 秋男*
	蛭田 史郎*		
取締役 常勤監査等委員	本田 隆晴	鶴見 淳	
取締役 監査等委員	上原 治也*	畑口 紘*	石原 邦夫*

### 2. 執行役員

社長執行役員 兼 CEO	馬立 稔和		
副社長執行役員 兼 CFO	岡 昌志		
常務執行役員	浜田 智秀	御給 伸好	小田島 匠
	萩原 哲	濱谷 正人	
執行役員	吉川 健二	長塚 淳	中山 正
	鈴木 博之	池上 博敬	森本 哲也
	金原 寿郎	石塚 伸之	山口 達也
	村上 直之	大村 泰弘	

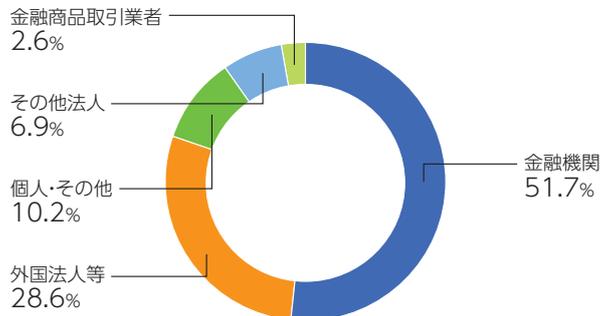
## 事業所

本 社 〒108-6290 東京都港区港南2-15-3 品川インターシティC棟  
 大井製作所 〒140-8601 東京都品川区西大井1-6-3  
 横浜製作所 〒244-8533 神奈川県横浜市栄区長尾台町471  
 相模原製作所 〒252-0328 神奈川県相模原市南区麻溝台1-10-1  
 熊谷製作所 〒360-8559 埼玉県熊谷市御稜威ヶ原201-9  
 水戸製作所 〒310-0843 茨城県水戸市元石川町276-6  
 横須賀製作所 〒239-0832 神奈川県横須賀市神明町1-15

## 株式の状況

発行済株式の総数 400,878,921株  
 株主数 31,903名

### 所有者別株式数分布状況



(注) 自己株式(10,702,045株)は、「個人・その他」に含まれています。

### 大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	45,584	11.7%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	29,852	7.7%
明治安田生命保険相互会社	19,537	5.0%
株式会社三菱UFJ銀行	7,378	1.9%
株式会社常陽銀行	6,801	1.7%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	6,657	1.7%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口7)	5,727	1.5%
JP MORGAN CHASE BANK 385151	5,509	1.4%
三菱UFJ信託銀行株式会社	5,481	1.4%
株式会社静岡銀行	4,996	1.3%

(注) 自己株式(10,702,045株)は、上記大株主から除いています。また、持株比率は自己株式を控除して計算しています。

本報告書は、注記のない限り、記載金額及び株式数は表示単位未満を四捨五入しています。

## 株主メモ

事業年度 4月1日～翌年3月31日

期末配当金  
受領株主確定日 3月31日

中間配当金  
受領株主確定日 9月30日

定時株主総会 毎年6月

単元株式の数 100株

### 公告の方法

電子公告により行います。ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは日本経済新聞に掲載して行います。  
<https://www.nikon.co.jp/ir/bp/index.htm>

### 株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関

三菱UFJ信託銀行株式会社  
 (連絡先) 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
 東京都府中市日鋼町1-1  
 TEL 0120-232-711(通話料無料)  
 (郵送先) 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号  
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

※表紙の写真はZ 6、AF-S NIKKOR 14-24mm f/2.8G ED + マウントアダプター FTZで撮影したものです(撮影:丸田あつし氏)。



株式会社ニコン  
 108-6290 東京都港区港南2-15-3 品川インターシティC棟  
[www.nikon.co.jp](http://www.nikon.co.jp)

見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

